

KANAGAWA



社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2011 年
1 月号

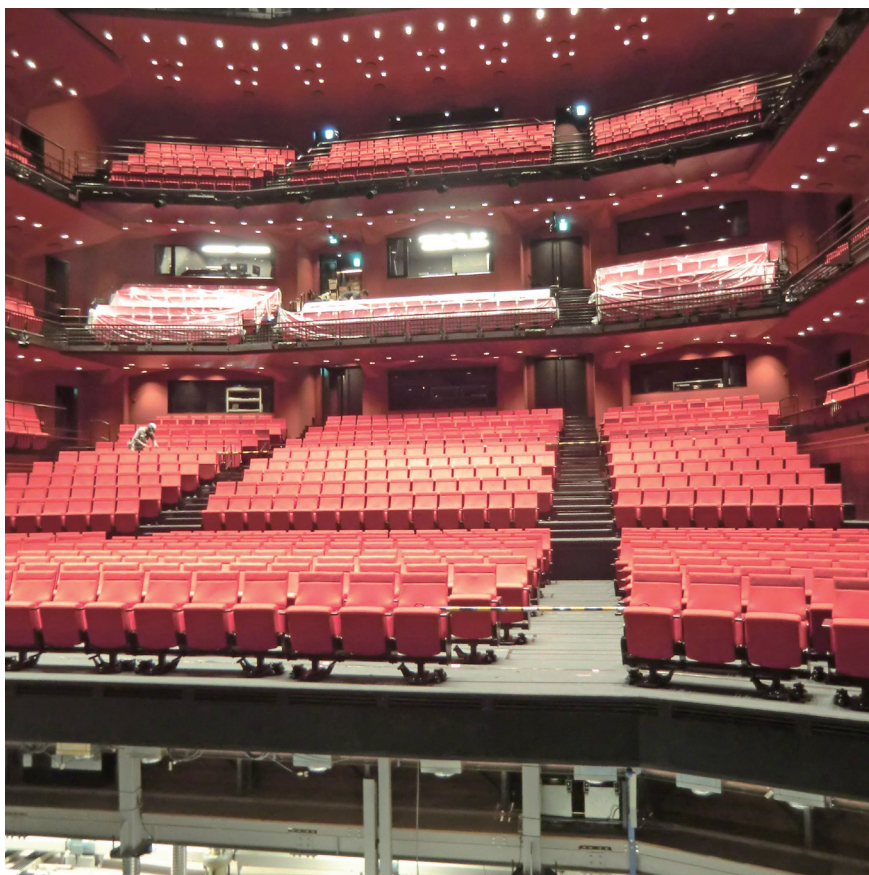
VOL.351



神奈川芸術劇場・NHK放送会館

HP情報

- 屋内運動場等の耐震性能診断基準の一部変更について
- 住宅・建築物の耐震化緊急支援について



大劇場客席



48居留地

目次

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| ① 建築探訪 | ⑪ 神事協 歌壇・俳壇 受賞作品発表 |
| ③ 年頭挨拶 | 旅のクイズ |
| ⑨ 年男の初夢 | ⑬ 事務局便り |
| ⑪ 理事会・年末合同役員会 開催報告 | 編集後記 |
| ⑫ 神奈川建築コンクール 神事協賞受賞作品（一般建築部門） | 三合同賀詞交歓会 開催案内 |
| ⑬ 新春名刺広告 | |

神奈川芸術劇場に期待する

川崎支部 恩田 耕爾

工事概要：

設計・監理：香山・アプル総合・アプルデザイン設計共同体

施工：鹿島建設

工期：2007年12月～2010年7月

主要用途：劇場・NHK放送会館・駐車場

延べ床面積：24000㎡

神奈川芸術劇場が横浜・山下町に完成しました。演劇・ミュージカル・ダンス等が楽しめる県立の劇場が本年1月より、オープンします。一つの建物に神奈川芸術劇場とNHK横浜放送会館が併設されています。工事中の施設名称は「横浜山下町地区市街地再開発事業B1街区施設」とうものでした。一度、川崎支部主催の現場見学会を募集しましたが事業名称が原因したか、参加者は少なかったです。しかし完成してみると大劇場のほうは1300人が収容できる堂々たるものです。外観はレンガタイル、ガラス、金属板を使ったデザインを組み合わせ、おとなしく収まっていますが、魅力は内部の空間と舞台装置です。デザインは「彩の国さいたま芸術劇場」を設計された香山壽夫先生です。舞台技術に関しては(有)空間創造研究所がアドバイス等をされたと聞きました。神奈川県民ホールと一



ホール吹抜け

体的に利用されることが計画されています。都市に大勢の人々が仕事をされ、その日常性から開放される「非日常」の実現に腐心されたとお聞きします。その非日常を都市の中心部に据えられました。最上階まで吹き抜けのアトリウムを見上げると赤茶色の劇場部分の壁がせり出しています。まるで錆びた舟の船尾が陸に打ち上げられたようです。横浜らしさとは何だろう？海と陸の対比、外国人と庶民、舟と鉄道・車、陸の道(昔、信州→八王子→横浜までの絹の道、今は東海道線ほか鉄道と道路網)と(ヨーロッパ→アジア→横浜までの海の道)とが交差する街が横浜です。外国人といえば劇場のすぐ脇に「48居留地」のレンガ造の建物が一部、歩道の上にあります。日本最古のレンガ造です。芸術劇場の



最上階の窓から見える横浜大栈橋



入り口ホール

見学のあとに見てくるのも良いと思います。…昔、「英一番館」があったのはシルクセンターのそばです。建物の配置計画から、観客はJRと地下鉄から来ることを想定しているように見えます。最上階の海側の窓から山下公園側を眺めると、貿易センタービルに少し遮



1階大道具搬入ヤード

られますが海に突出している大栈橋が見えます。神奈川県民の一人としてはその岸壁に10万、20万トンクラス的大型客船が3隻、4隻が横付けされ1300席の収容能力のある客席の数百席がその客船をホテル代わりにする外国人観光客で埋められ、劇場が日本人観客と外国人観客の交流の場になることを夢見たいです。そのためには船の運行が可能にするような公共投資も必要と思いました。神奈川の街は羽田空港と横浜港が利用できる国際都市になることができると思います。羽田の国際化が進んで、港の国際化も緊急課題と感じます。江戸時代、横浜は貧しい漁村でし

た。近代に一時興隆しましたが、今はアジアの中でも地盤沈下が進んでいます。陸の横浜から海の横浜の復活を神奈川芸術劇場の誕生を契機に、新年の夢として期待したいところです。バハマ諸島の島もフロリダから10万トンクラスの豪華客船が4隻も港に停泊すると街の中が大変活気付いてきます。横浜はバハマより何十倍もドラマチックなことが期待できる都市です。神奈川芸術劇場の完成は横浜にとって、文化芸術が市民生活を充実させるばかりでなく、都市の活性化さらには国際的な競争力にとって大きな効果をもたらす

ものと考えています。「クリエイティブシティ」を実現するための一つのプロジェクトである“創造界隈の形成”には今回の芸術劇場の完成は一つの役割を果たすと感じられます。

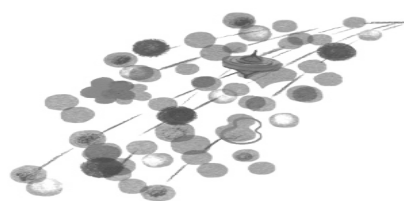


屋上緑化



『年頭挨拶』

会長 上原 伸一



新年あけましておめでとうございます。2011年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、旧年中は当協会に対し会員の皆様の多大なるご協力をいただきましたことに、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

当協会が改正建築士法による法定団体として建築士事務所業務の適正化と建築主等の利益保護を図ることを目的とした役割、責任を担い、新たなスタートを切ってから2年が経過しようとしています。この間、建築士事務所が失われた信用を取り戻し、更に社会的地位の向上を目指し、事務所協会による法定団体としての団体の自律的監督体制の強化、管理建築士の要件強化、開設者に対する情報開示などのルール強化などの取り組みを行うほか、建築士事務所の適正な業務報酬基準への対応や一連の法改正の円滑な運用を目指した要望などを行ってまいりました。

今後当協会では、この法定団体としての役割を踏まえながら、会員が誇れる魅力ある組織としての協会を目指し、活気ある事業や制度の運用を展

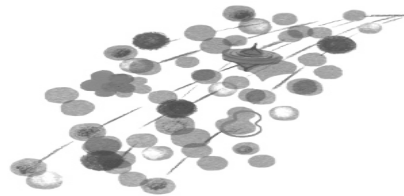
開しながら、次のステップとして建築士事務所法制定や建築士事務所協会への当然加入化に向けての活動も行っていく必要があると考えています。日事連では建築設計・監理業の確立を目指す私たちは、建築士事務所法の制定により設計・監理等を機能的に統括する建築士事務所を事業者として法的に位置づけ、建築士事務所の役割と責務の明確化を図ることが最重要課題であると考え、昨年の建築士事務所全国大会でもシンポジウム「建築設計・工事監理業の確立に向けて～建築士事務所法はなぜ必要か～」を開催し、建築士事務所法の必要性の議論を行いその実現に向けて一歩踏み出したところです。また当然加入化についても、日事連では会員増強検討ワーキンググループを設置し、加入促進の実効性を上げる活動を始めました。依然建築界は大変な状況にある中で、私たちが法定化という後ろ盾を得ることができたことは日ごろの私たちの活動の成果と言えると思いますが、更なる飛躍を目指し、それぞれの会員事務所がしっかりした経済基盤の上で社会や地域に貢献できるような体制を築き上げるために、引き続き会員皆様の絶大なるご協力をお願いし、年頭の挨拶といたします。

3



年頭所感

日本建築士事務所協会連合会
名誉会長 小川 圭一



新年明けましておめでとうございます。

現在の建築制度は、昭和25年制定の建築基準法、建築士法により60年間の長きに亘りその大綱は変わる事なく続いてきている。この間社会情勢の変化、技術の革新、問題発生への対処等により幾多の改正が行われ、その体系は複雑多岐に渡り専門の建築士にとっても難解なものとなり、建築設計の現場に於いても法適合に汲々としているのが現実の姿である。

また一方では建物の基本的要求への対応より商業主義が優先し、片寄った建物が造られたり、少子高齢化、人口減少、世界的な景気後退の中で建設投資は半減し、この様な中で設計者がいかにしたら本来の仕事が出来るかという問題もある。こ

の様な状況を解決するために建築制度の改革は緊急の課題である。

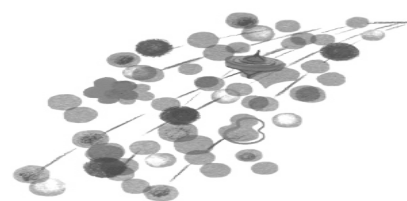
この為には建築の基本理念を定め、その理念実現のための基準（建築基準法）、設計の統括者たる建築士事務所・管理建築士の法的地位、権限、義務の確定（建築士事務所法）、設計技術者の資格制度、権限義務の確定（建築士法）の整備が必要である。神事協の上部団体である日事連に於いても「建築設計、工事監理に関する業を担う観点からの提案」を出しているが、法の抜本的改正と云う事になると建築設計事務所協会だけでなく業界一丸となった社会への理解を得るべく努力なしには不可能と思われる。会員諸兄にもその方向での御支援、御協力をお願いする次第である。

この一年が会員諸兄にとり、良い年となる事を祈念し年頭挨拶と致します。



年頭のご挨拶

神奈川県県土整備局
建築住宅部長 節 健夫



新年あけましておめでとうございます。社団法人神奈川県建築士事務所協会及び会員の皆様におかれましては、新たな抱負や願いを胸に新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、日ごろから、建築士事務所に対する指導や法定講習の受講促進等に精力的に取り組んでいただき、感謝申し上げます。また、会員の皆様におかれましては、建築士事務所の適正な管理にご尽力いただき、改めて敬意を表します。

さて、建築物の安全性の確保の観点から建築基準法が改正され、建築確認・検査の厳格化等

が図られるとともに、建築士法の改正により建築士事務所の業務の適正化が求められているなか、本県では関係法令の適正な運用に努めております。

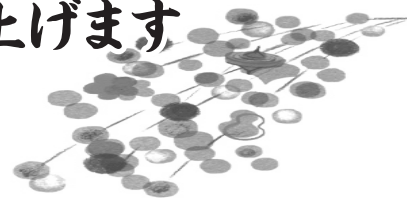
また、県民の皆様のより豊かな住生活を実現していくために、本県では、現在、「神奈川県住生活基本計画」の見直しや「神奈川県高齢者居住安定確保計画」の策定に向け取り組んでいるところであります。

こうした取り組みをはじめ県政の推進にあたり、本年も引続き、貴協会及び会員の皆様のお力添えをお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。



初春のお慶びを申し上げます

神事協・賛助会
会長 太田 清一郎



新年を迎え、新たな気持ちで本年のご計画等を熟思されたことと存じます。

旧年中は本会の皆様方にお世話になりました。

特に「神事協フェア」は、ある意味で創めて本会の皆様方との協業となりまして、上原会長をはじめご協力頂いた委員会・皆様方に深謝しております。

開催の目的である一般市民への神事協の活動・存在を知らしめる事については、充分とは言えませんでした。しかしながら、挿し木が根付きいつかは大樹となるように、皆様方と一緒に育てて、市民の方々から期待される催しにし

ていきたいと考えております。

昨年新聞では、スマート・グリッドや都市開発のノウハウ提供、原発や新幹線等のインフラ整備など、日本の技術や管理・運営などが他国に評価され新たなアーキテクチャーの萌芽を見いだせます。このような大規模で新しい技術もやがてはその一部が建築に応用されると想われます。本会の皆様方が日々研鑽されていますように、私ども賛助会も新しい技術・素材などを提供できるよう努力していく所存でございます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様方の事務所の益々のご発展とご健勝を祈念しております。



副会長

吉川 昭

建築士としての職能を生かし、必要とされる人々の要望に応えるべく実りある一年にしたいと思います。

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。『今年こそ、良い一年であるように！』その様な思いで新年をお迎えの方も多いことと思います。

良くするのは自分から。そして隣の人と一緒に良くなりましょう。『己が為だけでなく皆の為』そんな思いで生きて行けたら素敵ですね。以前、こんな話を聞きました「風呂に入って暖かいお湯を自分のほうに寄せていたら腋の下から逃げていく、お湯を前に押出したら腋の下から入ってくる」明るくなるのを待つばかりで無く、自分の周りから明るくしてゆくほうが早いかもしれません。日本の将来を見据え、明治維新を生きた人々の思いはいかなるものであったのでしょうか。そんな思いを胸に秘め、



副会長

小林 忠志

新年の言葉

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様、賛助会の皆様におかれましては御健勝のこととお慶び申し上げます。旧年中は委員会の皆様始め賛助会の皆様には当協会発展の為、御尽力頂きましたことに御礼申し上げます。

昨年の事業では湘南ブロックにお世話になりました地引綱大会、ボウリング大会など楽しかったことや新たな事業として賛助会と協力して開催された第1回神事協フェアも意義深いものであったことを思い起こします。関係役員の方々に改めて感謝いたします。

さて、当協会も法定団体として1年余が経とうとしておりますが、今年は新たに公益法人制度改革による新たな社団法人の認可に向けて取り組まなければなりません。又、上部団体の日事連においても会員増強の取組みの活動が開始され、当協会でもより一層の会員増強活動を進めることが必要となります。しかしながらまずは会員の為、何が出来るかを第一に活動してゆくことが肝要かと思われます。

その為には、問題の先送りせず、まずは出来るものから率先実行し効率的な協会の運営が重要ですのでそれを踏まえた 事業運営に一致団結してゆく所存です。

まだまだ、不景気の嵐は吹き荒れておりますが、今の為ではなく未来の為に会員、役員、賛助会員、事務局の皆様の御協力、御尽力をお願いしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

最後に一句 初春を祝う神酒で二日酔い



副会長

芝 京子

希望ある未来を

新春の朝日に漂う張りつめた空気の間から、梅や福寿草の馥郁たる香りの中、新しい年の始まりに心引き締まる思いでございます。

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年を省みつつ、これから始まる新しい年を希望に胸をふくらませてお迎えになったこととお喜び申し上げます。

私たちを取り巻く建築界におきまして、平成維新（基準法維新）といっても過言ではない状況から、いま業務におきましては、なんとか流れにそってそれなりに進んでいるかのように見えますが、いまだ多くの諸問題をかかえ、戸惑いを感じている皆さま方も多いのではないのでしょうか。

「コンクリートから人へ」というあの衝撃的なフレーズは、今になって冷静に考えてみますと、新しい時代の状況に対応する建築というビジョンの再構築という避けては通れない課題として、私たちが何をすべきか慎重に考える絶好の機会であるかもしれません。

さて、神事協におきまして、本会・ブロック・支部との流れが大変に良好であると同時に、事務局の皆さま方の行事への参加協力も多く、大変喜ばしいことだと思います。それぞれの活発な委員会活動と、支部活動の賜物だと信じております。

協会全体が一丸となって更なる参加！！より活力ある神事協！！

これをキーワードに、希望ある未来を目指して皆様と共に進んでいきたいと思ひます。

会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念し、念頭のご挨拶とさせていただきます。



総財務委員長
根岸 光司

年頭挨拶

会員の皆様、明けましておめでとうございます。今年は新年早々厳しい事を皆様に申し上げねばなりません。昨年に比べ神事協の事業規模を8割にせざるを得ないことです。一昨年も8割に縮小でしたので、一昨年比では6割にもなります。思いのほか、会員が増えていません。また、期待していた耐震診断評価も殆どありませんし、建築士講習も他の団体との競合が多く収入として伸びていません。一方、新公益法人制度に関してはほぼ当会は一般社団法人を目指すことになりそうですが、それでも、それに関する費用は全て持ち出しになってしまいます。救いはどこにあるのでしょうか。理事役員もこの5月で改選になります。次年度の役員さんには苦勞されないようにして引き渡したいのですが、現実はそのを許しそうにありません。今は、会員一丸となって会員増強を計るしか他に手はないように思います。

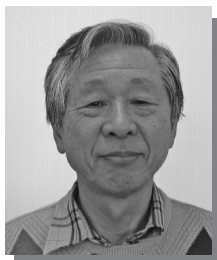


技術調査委員長
西倉 哲夫

年頭挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。相変わらず景気は低迷したままで、建設関係業界も今ひとつ元気がない状況です。そんな中で神事協は今年も元気を出して、更なる活性化に向けてがんばっていきましょう。技術調査委員会は年度内に会員向けの講習会をふたつ計画しております。ひとつは1月26日（木）に「建てて得するエコハウス 注目の法制度を整理整頓」と題して講師に南雄三氏を招いて横浜市技能文化会館にて行います。その次は2月25日（金）に「エンドユーザーのための目的志向型材料設定法の概略」と言うテーマで明治大学教授の菊池雅史先生をお願いをして講習会を開催する事になっております。後援題名はもう少しわかりやすい題名で皆さんにお知らせがいくと思いますので、興味を持ってお待ちください。今まで建築家や設計士のほとんどが余り考えてこなかった「建物の寿命と対費用効果やコスト」に関連した講演ですので、この際ぜひご参加ください。

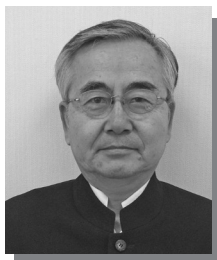
6



企画業務委員長
棕 茂廣

年頭にあって

あけましておめでとうございます。前年は、耐震偽装による一連の建築基準法及び関係法令等の改正が施行され、又、瑕疵担保履行法、長期優良住宅、住宅エコポイント、省エネ法等々、新しい施策も出揃い、一段落した感がありますが、皆様はどのように感じていますか？
これらに対応するために、講習会や研修会を実施してまいりました企画委員会ですが、今年度は、いまさら聞けないシリーズを早々に開催いたします。内容は、「電気、給排水、空調設備」各講義を、協会会議室にてセミナー形式で行います。尚、講師は設備協会より派遣して頂くことが決定しています。又、会員、ユーザーが楽しめる企画をしたいと考えておりますので、ご期待ください。今年は楽しく過ごしましょう。



広報情報委員長
佐藤 光良

兔年を迎えて

新春のお喜びを申し上げます。故郷での子供時代、ライスカレーのご飯用型抜きに雪を詰めて兎を創った思い出があります。耳が竹の葉で目が南天でした。両方とも材料が入り難くなりましたが、一番入り辛いのは雪でしょうか。めっきり雪が減ってきたのは温暖化の所為でしょう。一番の省エネは昔の様な我慢する生活かもしれませんが、ここまで時代が進むと逆戻りは難しいでしょうね。今年も厳しい一年になりそうですが、皆様のご活躍を期待しております。今年も会報誌とHPへの御協力何卒宜しくお願い致します。



横浜ブロック長
平山 正義

年頭にあたり

新年あけましておめでとうございます。

一期2年務めてまいりましたが、実に楽しい時間をすごしました。神事協に来るのは初めてでしたので、委員の各ブロック長とは初めての出会いでした。そして会員増強・建築士事務所キャンペーン・スポーツ大会のことや協会の基本的なこと、将来のこと等、結論は出ませんが重要な話し合いが活発に行われ、大いに感じるところがありました。また、移動委員会と支部長合同委員会も毎回楽しみましたし、なんと言っても「囲碁」にも出会いました。

今年は、支部の役員改選の年であり、ブロック長も交代するかも知れませんが、支部と本会をつなぐ重要なポストですから、これからも大切にしていきたいと思ひますし、支部（ブロック）の意見をどんどん出して検討して頂ければと思っています。



川崎ブロック長
白井 勇

年頭挨拶

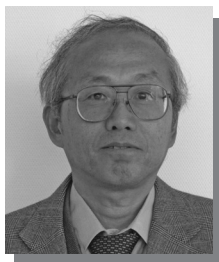
川崎支部は昨年創立60周年を迎え、5月に総会とともに「子供映像シンポジウムかわさき」というテーマでイベントを開催いたしました。

その際には、県内各支部の皆様の参加をいただき、節目の年度の新たな出発ができました。本当にありがとうございました。秋口には、川崎映像のまちづくり推進団体より感謝状をいただき、支部としてもかわさきのまちづくりの協力ができたのではないかと考えています。

来年も“市民とともに”を目標に今後も社会に貢献できる会として活動していきたいと思ひます。

皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

7



横須賀ブロック長
増田 務

年頭挨拶

ブロック支部委員を務めて4年を経過しようとしています。

この間、会員の増強及び退会防止実施、支部長合同ブロック支部会議、建築士事務所キャンペーン、スポーツ大会開催、地引網など、多岐に携わってきました。昨年は横須賀ブロックで「支部長合同ブロック支部委員会」が開催され、充実した会議はもちろん「潜水艦見学、米軍基地内での懇親会」と楽しい時間を過ごしました。横須賀支部、湘南三浦支部には大変お世話になりました。

今後、検討していく事案が沢山あると思ひます。残された任期は少ないですが、ブロックと協会の発展に繋がる様、微力ですが努力して行きたいと思ひます。



湘南ブロック長
津田 孝之

年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別なご高配を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

本年も、湘南ブロックへのより一層のご支援を賜りますよう、何卒、お願い申し上げます。



中ブロック長
齋藤 清

年頭挨拶

皆様にとって本年も実り多い年になりますことを お祈り申し上げます。

建築士事務所としての業務を遂行する上で、会員であるがゆえの恩恵に預かれる。会員としてあるには経営が健全に維持されてこそ社会貢献につながります。仲間づくり、有益情報の提供。支部・ブロック・本会に求められる期待に答えられる会運営にお手伝いができれば幸いです。今年は、中ブロック主催のスポーツ大会を予定しています。ご協力のほどよろしくお願い致します。



県央ブロック長
谷田 康司

年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平成23年は、奇しくも私の干支でもある辛卯（かのとう）の歳です。暦をひも解くと十干の辛（かのと）は、からい、つらい、くるしの意があり、新年早々からあまり聞きたくない言葉です。だがご安心を。十二支の卯（う）には、さかんと意があり、草木が生長し、枝葉も伸びて盛んになる様子を表しているそうです。ようするに、何事にも入念な準備を怠らず慎重に行動することが求められる一年になるということか、と私なりに理解をしましたが、皆さんは如何でしょうか？今年一年が良い年でありますよう祈念いたします。



相模原ブロック長
福永 憲一

年頭の挨拶

新年おめでとうございます。

昨年、相模原ブロック（相模原支部）は消費者保護の観点から消費者目線の事業を念頭に『安心・安全・快適な家づくり・街づくり』を支部目標に掲げ、10月2日に第二回【建築・住まいるフェスタ2010】を支部事業として開催致しました。

結果として反省点は多々ありますが、一年毎の結果を大切に試行錯誤を繰り返しながら、地元の建築業界の主軸に成れるよう、今後も回を重ね努力して行きたいと思えます。

本年は平成23年度建築士事務所キャンペーンの開催ブロックなので、支部役員並びに会員と全力で企画運営をして行きたいと思えます。

また平成23年度は支部役員も改選の年でもあり、新たな役員構成で地元の建築士業務団体として、建築士としてのコンサルタント業務に対応した支部事業を展開し、信用と信頼の持てる建築士事務所として、技術研鑽を高め、消費者により期待を持てる団体に周知、評価されるよう支部会員一同、頑張っていきたいと思います。



県西ブロック長
小林 幸一

年頭の御挨拶

平成23年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は県西ブロックの活動に対しまして深いご理解と多大なるご支援を賜り心より御礼申し上げます。特に昨年の建築士事務所キャンペーンでは、多くの本会の皆様方と共に事業を実施することができ、一般市民へ建築士事務所のアピールが果たせた同時に、本会会員の団結力に改めて感謝申し上げる次第です。会員の皆様並びに神事協のより一層の発展をお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



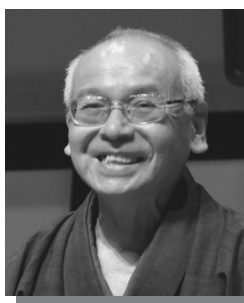
卯年生まれの新年の抱負



新年の抱負

昭和2年生まれ 横浜支部 中澤 明海

新年を迎えて7回目の年男、神事協に現役での84歳はいないと思います。生まれは12月14日忠臣蔵討ち入りの日で、北海道産、東京青山育ち、福井高専建築科S23年卒、校舎は戦災、不静定構造概論（斉藤謙次著）を持たされて、不景気の世に出て、基準法と共に構造、現場と。プラント、架台、各種建物と沢山設計して、今でも飽きずに構造設計しています。とても面白い仕事です。多くの方々に支えられ好運にも恵まれて、更に構造1級も受かり、北欧旅行を楽しみに今暫く続けたいと。本年も宜しく御付合ひの程お願いします。



『年男の初夢』

昭和14年生まれ 横浜支部 金子 光一

二年に一度の「横浜にぎわい座」への出演を後5回、その他、小学校・檀家寺・町内会・敬老会等での高座も後10年。横浜市中区民ミュージカルへの出場を隔年5回。昨年初体験した映画出演もオフアが有れば積極的に参加したい。ヘボ・テニスもお相手が50代のご婦人連中なので後5年は続けられそう。女性にも少しは「法蓮華経」（これが長生きの秘訣とか？）これ等が全て叶えられたら「拍手ご喝采」を戴こう。「ジジイズ・ビー・アンビシャス！！」（以上 極楽亭とんぼ の初夢です）



7回目へ出発

昭和14年生まれ 横須賀支部 櫻井 忠

22歳で建築士の資格を取得した頃、満72歳になっても現役で仕事をしているとは思ひもなかった。一緒に仕事をしていたせがれは転職をしたし、来年高考生になる孫（中学校のロボコン部長）に希望する職業を聞いたら『機械関係』と言われた。以前私の夢は親子三代で建築設計をすることであったが、これは実現しそうもなくなった。こうなったら私個人でとことん建築設計業を全うしようと思う。若き設計家の建築士からすればいい加減にしろと言われるかもしれないが7回目の年男を迎えるまでは現役でがんばっていくつもりだ。幸い身体もなんとか丈夫（毎朝4時起きして散歩している）だし、勉学意欲も益々盛んである。まだまだ若い建築士の皆さんとも張り合って行きたいと思っている。



「少しはスローに」

昭和26年生まれ 横浜支部 大森 義則

「小人閑居して不全を為す」と云う私の好きな格言が有ります。何歳になろうと、何度兎年が廻って来ようと、私の様な凡人はこの言葉の様に、常に忙しく働いていた方が周りの人達に迷惑をかけないだろうと今までは考えておりました。また、その様にやってきたつもりです。

好きな建築設計と云う生業を得て、曲がりなりにもこの歳までやってこれた事に感謝し、本来もっとスピードを上げる時期なのかも知れませんが、還暦を機会に、今までフル活動の心身への褒美として「スローライフ」と云いますか、今年から、生活にゆったりとした時間を少しは取り入れてみようと思っています。



新年の抱負

昭和26年生まれ 座間支部 清水 康弘

60歳還暦、まだずっと先の事と思っていたのですがいつの間にか足元に。
今年の千支は「ウサギ」物語では突っ走るウサギですが当人は小走り程度に歩んで来た様に思います。
気力、体力は〇〇歳と思いながらも還暦という大きな節目に遭遇しこれからはカメに近いウサギで15の時の夢であった建築士の仕事を末永く楽しみながら続けられればと思います。